



長小だより

9
月
号



心理的安全状態を保つことの大切さ

相変わらず暑い日が続いていますが、朝夕の風には確かに秋の気配を感じられようになりました。保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本日より2学期が始まり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。今学期には、運動会をはじめ、宿泊行事（修学旅行、野外活動）や各学年での校外学習など、子どもたちにとって、こころワクワクする多くの活動が計画されています。現在、緊急事態宣言が発出されており、今後の感染拡大状況によっては、子どもたちの安心・安全を第一に考え、行事や授業等の内容を縮小・制限したり、延期または中止したりせざるを得ない状況になるかもしれません。しかしながら、子どもたちへの学びを止めないを根幹として、コロナウイルス感染防止対策を講じながら、教育活動を進めていく所存であります。1学期同様、今学期においても、保護者の皆様や地域の方々の温かいご理解とご協力をお願い申し上げます。

夏休み中、読んでいた書籍、工藤勇一・青砥瑞人共著、『最新の脳研究わかった自律する子の育て方』に次のようなくだりがありましたので、紹介したいと思います。

学校や家庭が子どもにとって緊張感や嫌悪感、不信感に満ちた環境であれば、子どもの脳にはストレスがかかりっぱなしで脳を訓練するゆとりがもてません。子どもの脳を自由にすくすく伸ばしていくためには、できるかぎり子どもの脳に不要な負荷をかけず、心理的安全状態を保っておくことが重要です。

そのためには学校は2つのことを並行して実現する必要があります。

ひとつはやはり教育の現場を、子どもたちが安心できる環境にしていくことです。

キーワードで言えば「失敗しても大丈夫だよ」「失敗こそが学びだよ」ということに尽きます。これを単なる標語で終わらせるのではなく、すべてが許される環境を整えることが重要です。

そうは言っても、いつも安心安全な場所をつくるのが可能かという点、そうではありません。社会に出ればいろいろなトラブルがあります。そういったトラブルや環境の変化などからくるストレスに強い脳をつくっていくことも、子どもたちの成長のために必要です。つまり心理的安全状態を自らつくるのが得意な脳を育む、ということです。

教育者の役割はこの2つに集約されると思います。

子どもたちに安心・安全な環境を提供し、「失敗しても大丈夫だよ」などの声掛けをしていくことが、いかに大切であるかを示唆しています。教育者を保護者や地域の方々、学校を家庭や地域社会に置き換えてみると、子どもの成長と豊かな学びを願う大人として、子どもたちとどのように接していけばよいのかという一つの指針になるのではないかと思います。

【文責 校長 森田浩基】

2学期の学校生活・行事について

基本的な対応については、本日配付の長久手市「緊急事態措置に伴う教育活動ガイドライン」をご覧ください。

【学校生活】

- ① 引き続き感染拡大防止と熱中症対応に心がけ、学校生活を行います。
- ② 感染者が判明した場合には、長久手市ガイドライン（R3.4.1）に基づいた対応をします。
- ③ 感染者や濃厚接触者が差別、偏見、いじめ、誹謗中傷等の対象とならないように、道徳やモラル指導を確実にを行います。

【学校行事】

- ① 授業公開について
9月8日（水）の授業公開は延期します。
- ② 宿泊行事について
「野外活動における新型コロナウイルス感染拡大防止のガイドライン」「修学旅行における新型コロナウイルス感染拡大防止のガイドライン」に基づいて実施します。コロナウイルス感染状況によっては、中止や延期の措置を行う場合があります。
- ③ 運動会について
11月6日（土）に実施する予定です。
- ④ 各学年の校外活動について
9月中は観光バスや市役所のバスを使用しての校外活動は原則行いません。
- ⑤ 部活動について
9月12日（日）までは、部活動を行いません。

